学研教育総合研究所　田村尚志

第15回テーマ

幼児、小学生、中学生、高校生白書で子どもの声を聞く

近年、多くの自治体やこども家庭庁で『子どもファースト』宣言が行われ、子どもの声を聞き、子どもの権利・利益を第一に考えるという政策が広がっている。

学研教育総合研究所のホームページで公開している「白書シリーズ」は、読者対象のアンケートはがき調査から全国の小学生に対象を広げ、さらに、幼児、中学生、高校生までの学齢を調査対象として、それぞれの時代の子どもたちの声を聞き、その姿を見続けてきた。

今年度は、幼児、小学生、中学生、高校生の調査データを「白書」として、２０２５年12月末から何回かに分けて公開するよう作業を進めている。子どもの声を聞くという観点で、今年度の調査結果をみていきたい。

25年度の調査の特徴について

◆幼児、小学生、中学生、高校生を対象に

25年度は、24年度までの小学生、中学生、高校生に幼児を加えた調査とした。それぞれの成長の過程を見ることで、視野の広がり、社会へのかかわり方の変化などを捉えられればということで、校種を広げ、一貫した調査とした。

今まで行ってきた調査の経年変化と合わせ、同じ年度内で異なる学齢での比較もみられるようになった。もちろん、学齢・校種に応じた質問も設定したので、すべての質問が共通ということにはなっていない。

◆自由回答項目で子どもの声を聞く

２０２４年の「将来なりたい職業」の項目ではこちらから提示した選択肢が60余り。14年の調査では31だったので、ほぼ2倍となった。職業が多様化したこと、過去には「その他」として回答されていたものが職業として認知されてきたことがその原因と推察。

25年は「将来なりたい職業」を選択肢ではなく、自由回答とした。この項目以外にも「大人に言いたいこと」など、いくつかの項目で自由回答を設け、生の子どもの声を聞く形とした。

毎年定点で聞いている「お年玉」「好きな教科・嫌いな教科」などと合わせて、以上のような特徴を盛り込んだ調査としたので、全体のボリュームは24年度よりかなりアップした。

今年度のトピックス

◆子どもたちの職業観

幼児、小学生、中学生、高校生の「将来なりたい職業」の上位は図1のようになった。なりたい職業を二つまで回答する自由回答形式としたが、学齢が上がるに従って、憧れからより現実的な職業になっていく傾向、ジョブ型（パティシエ、ネット配信者など具体的な仕事内容がわかるもの）からメンバーシップ型（会社員、公務員など、組織を示すもの）になっていく傾向は、選択肢で回答してもらった昨年と大きく変わっていない。目立つところでは、選択肢のときと単純比較はできないが、中学生、高校生で昨年2位だった「エンジニア・プログラマー」が4位、5位になったことだろうか。

ざっと男女全体の上位の職業を見ていこう。幼児では1位「パティシエ」「警察官」（いずれも１４５名）、3位「消防士」（１０６名）、4位「アニメ・ドラマ・映画・童話の登場人物・キャラクター」（77名）、5位「歌手・アイドル」（74名）。小学生では1位「ネット配信者」（１１３名）、2位「パティシエ」（１１０名）、3位「警察官」（92名）、4位「学校の教員」（87名）、5位「医師（歯科医師含む）」（69名）。また、中学生では1位「会社員」（75名）、2位「公務員」（54名）、3位「学校の教員」（49名）、4位「エンジニア・プログラマー」「ネット配信者」「医師（歯科医師含む）」（い

図1 将来なりたいと思っているもの

幼児【n=1200】		名	小学生【n=1200】		名	中学生【n=600】		名	高校生【n=600】		名
1位	パティシエ	145	1位	ネット配信者	113	1位	会社員	75	1位	会社員	74
1位	警察官	145	2位	パティシエ	110	2位	公務員	54	2位	公務員	52
3位	消防士	106	3位	警察官	92	3位	学校の教員	49	3位	学校の教員	47
4位	アニメ・ドラマ・映画・童話の登場人物・キャラクター	77	4位	学校の教員	87	4位	エンジニア・プログラマー／ネット配信者／医師（歯科医師含む）	36	4位	看護師	35
5位	歌手・アイドル	74	5位	医師（歯科医師含む）	69				5位	エンジニア・プログラマー	27

© 学研教育総合研究所

図2 将来なりたい大人像

≪小学生≫

男子【n=600】		%	全体【n=1200】		%	女子【n=600】		%
1位	人にやさしく接している	23.0	1位	人にやさしく接している	24.8	1位	人にやさしく接している	26.5
2位	自分らしく自由に生きている	22.8	2位	友だちがたくさんいる	24.0	2位	友だちがたくさんいる	25.3
2位	家族を大切にしている	22.8	3位	家族を大切にしている	22.4	3位	おしゃれ・容姿が整っている	23.5
4位	友だちがたくさんいる	22.7	4位	自分らしく自由に生きている	20.9	4位	家族を大切にしている	22.0
5位	お金をたくさん持っている	21.0	5位	お金をたくさん持っている	18.7	5位	自分らしく自由に生きている	19.0

≪中学生≫

男子【n=300】		名	全体【n=600】		%	女子【n=300】		%
1位	自分らしく自由に生きている	27.0	1位	自分らしく自由に生きている	28.5	1位	人にやさしく接している	30.3
2位	家族を大切にしている	25.7	2位	人にやさしく接している	26.8	2位	自分らしく自由に生きている	30.0
3位	人にやさしく接している	23.3	3位	家族を大切にしている	25.3	3位	家族を大切にしている	25.0
4位	お金をたくさん持っている	19.7	4位	友だちがたくさんいる	19.5	4位	友だちがたくさんいる	20.0
5位	友だちがたくさんいる	19.0	5位	趣味を楽しんでいる	18.8	5位	趣味を楽しんでいる	19.3

≪高校生≫

男子【n=300】		%	全体【n=600】		%	女子【n=300】		%
1位	趣味を楽しんでいる	27.3	1位	趣味を楽しんでいる	27.3	1位	お金をたくさん持っている	27.7
2位	自分らしく自由に生きている	24.3	2位	自分らしく自由に生きている	24.8	2位	趣味を楽しんでいる	27.3
3位	お金をたくさん持っている	17.3	3位	お金をたくさん持っている	22.5	3位	自分らしく自由に生きている	25.3
4位	家族を大切にしている	14.3	4位	家族を大切にしている	19.5	4位	家族を大切にしている	24.7
5位	穏やかに過ごしている	13.3	5位	人にやさしく接している	16.0	5位	おしゃれ・容姿が整っている	22.7

© 学研教育総合研究所

●これらの調査データは下記で公開中
https://www.gakken.jp/kyouikusouken/whitepaper/index.html

ずれも36名)。高校生では1位「会社員」(74名)、2位「公務員」(52名)、3位「学校の教員」(47名)、4位「看護師」(35名)、5位「エンジニア・プログラマー」(27名)となった。

幼児、小学校低学年では、職業のイメージや言葉化への対応が難しかったことも想像できるが、少数意見や大人視点ではない、子ども視点の職業・仕事観がみられたのが今回の大きな収穫だった。メディアで主に取りあげられるのは、ランキングであり、上位だけに目が行きがちだが、「ピタゴラスイッチの制作者」「ねぶた師」「ぬいぐるみの中に入る人」「ゴンチャの店員」などの回答は、子どもたちの職業観があらわれていると感じた。

◆イメージする理想の大人像

職業について、多様化が進み、20年前のように人気トップ2で、全体の4分の1を占めてしまうような状況とは様子が違ってきた。職業だけでは子どもたちの描く未来像が見えてこないので、24年同様、25年度も小学生、中学生、高校生に「将来なりたい大人像」を聞いた(図2)。

各校種の上位の回答は、

小学生では1位「人にやさしく接している」、2位「友だちがたくさんいる」

中学生では1位「自分らしく自由に生きている」、2位「人にやさしく接している」

高校生では1位「趣味を楽しんでいる」、2位「自分らしく自由に生きている」となった。

小学生は自分とその周囲に配慮した回答が上位に。一方、中学生、高校生では、将来、自らのライフスタイルを思い描いている様子がみえてくる。職業選択で学齢が上がるほど現実的になっているのと同様、生活と切り離せない「お金」についての回答が増えてくるのも特徴。高校生女子では「お金をたくさん持っている」が、24年より3ポイント上がり、2位から1位に。厳しい経済状況を反映しているのかもしれない。

◆おとなに言いたいこと

自由回答で小学生、中学生、高校生に「おとなに言いたいこと」を聞いた。回答は「希望(おとなの態度に対するもの)」「希望(自分自身に対するもの)」「不満」など、12のカテゴリーに分類(その他も含めると13カテゴリー)、整理したものが図3。

おとなの態度についての要望が小学生から中学生、高校生で増える一方、自分自身への要望は小学生で11%程度あるが、中学生ではおよそ3分の1に、高校生では8分の1ほどに激減する。逆に社会や政治に対する意見などは、小学生で3%程度だが、中学生で2倍以上、高校生で4倍と激増することがわかる。

実際の回答をいくつか拾ってみよう。「子どもの話を聞いてほしい(小4)」「政治などに子どもの意見も尊重してほしい(中2)」、「若い世代の意見にもっと耳を傾けてほしい(高1)」「自分が生きてきた物差しで測るのをやめてほしい(高3)」「もっと子どもを信頼して、意見を尊重してほしい(高3)」など、子ども自身に関するもの。「政治をちゃんとやってほしい(小6)」「もっと選挙に行ってほしい(高1)」「なぜ選挙に行かないのか(高2)」など、政治への関心に対する意見など、大人に向けられた厳しい視線を感じとることができる。

今回の調査で、情報リテラシーに関する、ちょっと気になったデータも。「インターネットやSNSの情報」について、「本当かどうか気にしていない」という回答が、小学生24・7%と約4分の1。高校生が15・3%となり、声をあげる前のインプットの重要性をもっと強調したほうがよいと感じる結果だった。

子どもの声は社会の今を反映し、未来へつながっていく。私たち大人の既成概念に捉われない形で未来を示唆するヒントが詰まっているのではないか。今一度、耳を傾け、子どもとの関係を見直すよい機会にもなるはずだ。

図3 おとなに言いたいこと

カテゴリー	内容	小学	中学	高校
希望①	おとなの態度などについての要望(～しないでほしいなど)	16.1%	25.7%	24.6%
希望②	おとなと一緒に～したいなどの要望	3.4%	1.0%	0.3%
希望③	自身に関する要望(○○が欲しい、○○したくないなど)	11.4%	3.9%	1.4%
不満	理不尽なことや、うらやましい(ずるい的な)など	8.1%	6.6%	7.7%
感謝	～してくれてありがとう・～してくれる	2.7%	2.4%	2.7%
労い	お疲れ様など	1.4%	1.3%	3.0%
疑問	質問・疑問形	2.8%	0.8%	3.6%
尊敬	「～ですごい」など	0.9%	0.5%	0.9%
好意	「好き」など	1.0%	0.8%	0.0%
意見	社会・政治に対する意見(世のおとなに対する意見など)	3.2%	6.5%	13.0%
謝意	ごめんねとか	0.0%	0.0%	0.2%
イメージ	おとなに対するイメージ(「～で大変そう」など)	0.9%	1.9%	2.6%
その他		3.0%	3.4%	3.6%
なし		45.0%	45.1%	36.4%